

## 岸本聡子さんから学ぶ

最初の写真は岸本聡子さんによる2020年3月出版の集英社新書。副題「欧州・水の闘いから日本が学ぶこと」のように、水道民営化に抗い再公営化を進める欧州の事例などが詳しく紹介されている。斎藤幸平さんも表紙帯で、「〈コモン〉再建の方法が具体的にわかる魅力的な一冊」と絶賛している。

本書を読んで多くのことを学んだ。水道などを民営化すると料金が高騰して、生活に欠かせない水(コモン=共有財)を利用できなくなる。再公営化は新しい公共サービスを創出するための第一歩で、公共サービスのコントロール権を住民の手に取り戻すことである。

岸本さんはアムステルダムを本拠地とする、政策シンクタンク NGO「トランスナショナル研究所」に2003年より所属。新自由主義や市場原理主義に対抗する公共政策、水道政策の研究および世界中の市民運動と自治体をつなぐ、コーディネートを行う(本書の著者紹介から)。まさにグローバルに活躍する岸本さんが、東京都杉並区長選挙に立候補することになった。東京のフェイスブック仲間の投稿から知って、選挙の行方を見守っていた。岸本さんは本当に僅差だったが、現職候補を破って当選した。

写真は東京新聞7月12日朝刊の社会面。「区民らに出迎えられ、杉並区役所に初登庁する岸本聡子区長=11日、東京都杉並区で」。区役所には自転車で玄関に到着した。拍手で出迎えた区民には、笑顔で投げキッスをして応えた。記者会見では「日本で一番透明性が高く、住民参加が活発な自治体になりたい」と抱負を語った。

「私には投票しなかった区民の想いを意識的に聞き、対話と理解を深めたい」と強調。「ハラスメントのない、すべての職員が安心して能力を発揮し区民のために働ける職場をつくる」と述べ、庁内融和に向けて力を尽くす姿勢を示した。当面の課題には、感染者が増加している新型コロナウイルス対策や物価高、猛暑への対応を挙げた。

大阪府・市の首長さんらに聞かせたい言葉だ。写真下は18日午後で開催された「自治から広げる未来」という学習会。主催はおおさかコモンズで、ゲストは岸本さんと選挙対策本部長を務めた内田聖子さん。選挙前から企画されていた学習会で、お二人はズームでの参加となった。

写真のキーワードに沿って岸本さんらしい話がつづき、内田さんからは選挙の「裏話」を含めた示唆に富む話を聴くことができた。あっという間の2時間だった。続報したい。

(2022年7月22日)

